

研究員 の眼

新NISAから外れても毎月分配型 ～2024年6月の投信動向～

金融研究部 主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

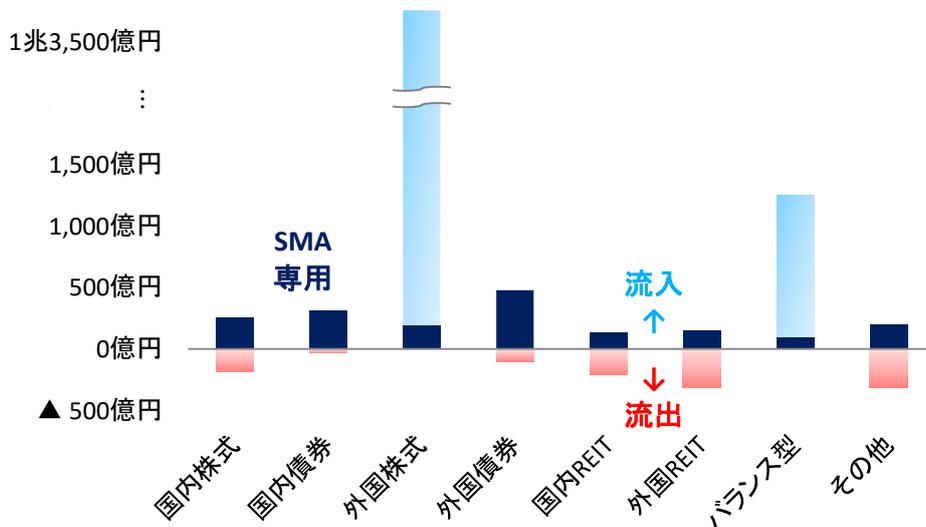
外国株式ファンドが非常によく売れた

2024年6月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、外国株式ファンドに1兆3,800億円の資金流入があった【図表1】。5月の1兆1,500億円からさらに2,300億円増え、過去最大を更新した【図表2】。

外国株式ファンドへの資金流入は2024年に入るまで2021年12月の9,900億円が最大であった。それが2024年に入ってから最も少額であった4月でも9,500億円と大規模な資金流入が続いているが、特に6月は一段と増えた。

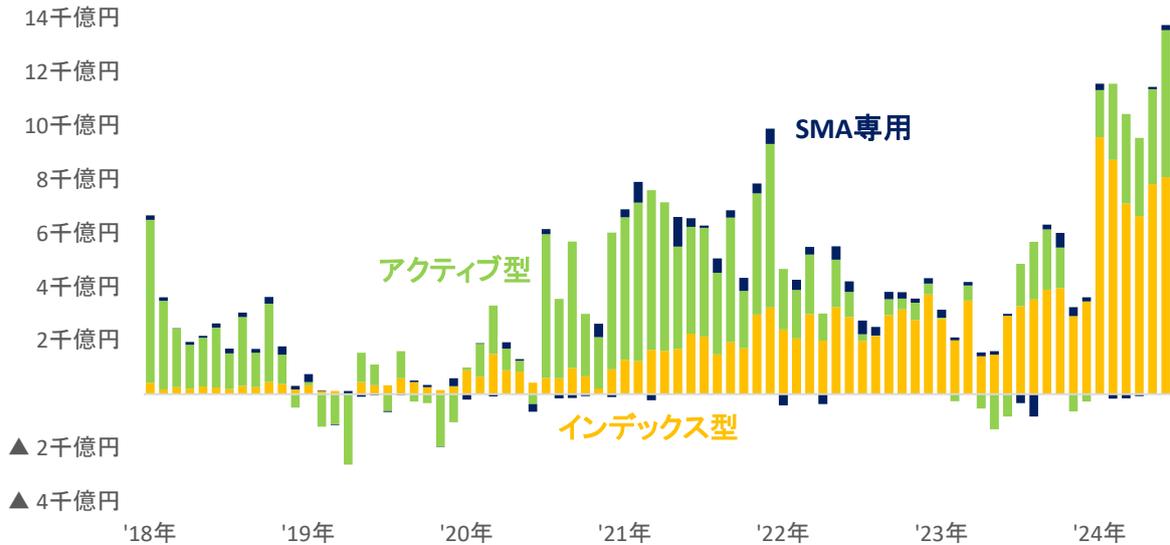
外国株式ファンドをSMA専用（紺棒）のものを除外し一般販売されているものに限ってタイプ別にみると、6月はインデックス型（黄棒）、アクティブ型（緑棒）ともに5月から流入が増加した【図表2】。特にアクティブ型が5,500億円と5月の3,500億円から1.5倍に膨らんだ。

【図表1】 2024年6月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表2】外国株式ファンドの資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。2024年6月のみ推計値。

毎月分配型の外国株式ファンドが販売をけん引

そもそも、アクティブ型の外国株式ファンドは2022年ごろから販売が低迷していた。これは2022年に外国株式が調整したことに加え、2020年後半から2021年にかけて販売が好調過ぎた反動もあったと思われる。2023年は一転して外国株式の株価上昇と円安で多くの外国株式ファンドの基準価額が大きく上昇したが、利益確定売りに押されて売却超過になる月もみられた。それが2024年は徐々に復調し、この6月は2021年12月の6,100億円以来の規模の資金流入があった。

2024年に入ってからアクティブ型の外国株式ファンドの販売を牽引しているのは、意外にも新NIS Aからの買付ができない毎月分配型である。一般販売されている毎月分配型の外国株式ファンドは資金流入が1月の1,100億円から毎月増加し、6月は3本(【図表3】赤太字)を中心に2,500億円の資金流入があった。

2024年は今のところ米国株式を中心に世界的に株価が上昇し、しかも年初1ドル140円前半だったのが6月末には160円台を超えるなど急激に円安も進んだ。そのため為替ヘッジをしていない外国株式ファンドは総じてかなりの高収益をあげており、それを原資に高分配を維持している毎月分配型、特に予想分配金提示型が多い。この高い分配金に注目して毎月分配型の外国株式ファンドを購入する個人投資家が増えているものと推察される。

【図表3】2024年6月の推計純流入ランキング

ファンド名	運用会社	5月の流出入	6月の推計純流入	純資産6月末時点
1位 eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UFJアセットマネジメント	2,011 億円	1,962 億円	3兆8,320 億円
2位 eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UFJアセットマネジメント	1,603 億円	1,682 億円	5兆1,064 億円
3位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・バーンスタイン	1,027 億円	1,299 億円	3兆0,877 億円
4位 HSBC インド・インフラ株式オープン	HSBC アセットマネジメント	539 億円	655 億円	3,392 億円
5位 野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)	野村アセットマネジメント	230 億円	567 億円	4,192 億円
6位 インベスコ 世界厳選株投信オープン(為替ヘッジなし)(毎月決算型)	インベスコ・アセット・マネジメント	566 億円	553 億円	1兆4,913 億円
7位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス・バーンスタイン	305 億円	384 億円	1兆4,371 億円
8位 ダイワ・ダイナミック・インド株ファンド	大和アセットマネジメント	186 億円	379 億円	2,998 億円
9位 フィデリティ・世界割安成長株投信 Bコース(為替ヘッジなし)	フィデリティ投信	320 億円	302 億円	8,767 億円
10位 フィデリティ・世界割安成長株投信 Dコース(毎月決算・予想分配・為替ヘッジなし)	フィデリティ投信	258 億円	292 億円	2,547 億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC 専用ファンドは除く。

アクティブ型にインド株式ファンドに過去最大の資金流入

さらにアクティブ型では、インド株式ファンドも非常によく売れている。6月は「HSBC インド・インフラ株式オープン」、「ダイワ・ダイナミック・インド株ファンド」（【図表3】青太字）を中心に、一般販売されているものに2,200億円の資金流入があった。5月も1,800億円の流入と過去最大であったが、さらに400億円以上増えた。その一方でインデックス型のインド株式ファンドは6月も200億円の資金流入と4月以降、200億円前後でほぼ横ばいとなっている。

このようにインド株式ファンドがアクティブ型のみ足元でよく売れているのは、インデックス型にインド株の中で特に高いパフォーマンスをあげているインフラ株にフォーカスしているファンドがないこともあるかもしれない。ただ、それ以上に対面証券でアクティブ型のインド株式を推していることがあると思われる。

インデックス型の米国株式ファンドも売れた

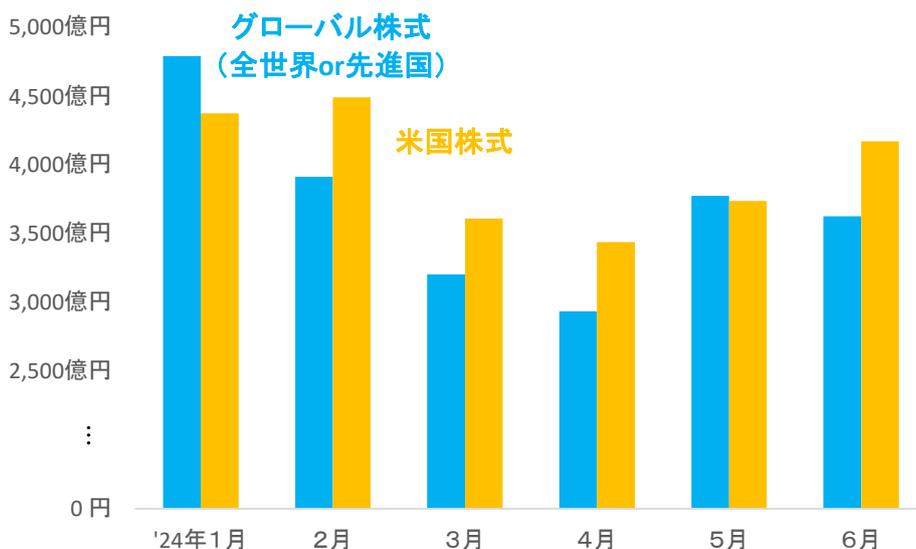
また、6月は一般販売されているインデックス型の外国株式ファンドにも8,100億円の資金流入と5月の7,800億円から増え、少額ではあるが2カ月連続の増加となった。インデックス型の外国株式ファンドは1月に資金流入が急増してから鈍化していたが、持ち直してきたのかもしれない。

最近のインデックス型の外国株式ファンドの一般販売を支えているのは、米国株式ものである。6月はインデックス型の米国株式ファンド（黄棒）に4,200億円の資金流入がものにより、2カ月の連続の増加となった【図表4】。なお、全世界株式指数に連動するインデックス型のグローバル株式ファンド（青棒）は3,600億円の資金流入と5月からやや鈍化した。

米国株式ものが盛り返している2つの理由

インデックス型の中で米国株式ものは昨年からのやや人気に陰りがみられ、1月までややグローバル株式のものに押されていた。それでも2月以降に盛り返してきている要因は2つあると思われる。

【図表4】インデックス型の外国株式ファンドのタイプ別の資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。2024年6月のみ推計値。SMA専用ファンドは除外

まず、何と言っても米国株式が 2024 年に入って好調なことである。2024 年上半期のドル建ての騰落率をみても全世界指数が 10%であったのに対してS&P500 種株価指数は 14%だった。さらにNASDAQ100 は 17%、FANG+指数やフィラデルフィア半導体株指数、いわゆるSOX指数にいたっては 30%以上も上昇した。足元の高パフォーマンスから米国株式を改めて見直す投資家や全世界に分散投資せずに米国のみで十分と考える投資家が増えたのではないだろうか。

それに加えてインデックス型の米国株式ファンドはFANG+指数やNASDAQ100、さらにはSOX指数に連動するものなど商品ラインナップが充実してきていることもあげられる。6月に高パフォーマンスだったファンドをみてもアクティブ型の米国株式ファンド（青太字）に交じって、3本の異なる指数に連動するインデックス型の米国株式ファンド（赤太字）もあったくらいである【図表5】。

このことから分かるように米国株式ファンドは従来の一律なインデックス型、多種多様なアクティブ型といった垣根がなくなっている。例えば米ハイテク株のみに集中投資したいという投資家のニーズにもインデックス型で応えることができるようになっている。

それもあってインデックス型の米国株式ファンドは過去にテーマ型などを購入していた投資家など、より多くの投資家に買われるようになり資金流入が底上げされていると考えられる。実際に6月は米国株式ファンドへの4,200億円の資金流入のうち700億円がハイテク銘柄中心の指数に連動するものへの流入であった。

外国株式とバランス型以外は低調だった

6月は外国株式ファンドに加えてバランス型ファンドも売れた。バランス型ファンドに1,300億円の資金流入があり2024年に入って最大であった。バランス型ファンドへの資金流入が1,000億円を超えたのは2022年10月以来のことであった。

その一方で外国株式ファンドとバランス型ファンド以外は、一般販売しているもの限ると売却超過であった。国内株式ファンドと外国債券ファンドは資金流出に転じ、外国REITファンド、国内REITファンド、国内債券ファンドは引き続き資金流出していた。そのため、ファンド全体で見ると1兆5,400億円の資金流入と5月の1兆4,600億円から800億円増加したが、外国株式ファンドが2,300億円も増えた割には小幅な増加であった。

【図表5】2024年6月の高パフォーマンス・ランキング

順位	ファンド名	運用会社	6月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 6月末時点
1位	NASDAQ100トリプル(マルチアイ搭載)	大和アセットマネジメント	19.3%	68.2%	82億円
2位	東京海上・インド・オーナーズ株式オープン	東京海上アセットマネジメント	14.0%	49.7%	69億円
3位	米国大型テクノロジー株式ファンド	三井住友トラスト・アセットマネジメン	13.3%	---	58億円
4位	一歩先いく US テック・トップ20インデックス	大和アセットマネジメント	13.1%	---	143億円
5位	iFreeNEXT FANG+インデックス	大和アセットマネジメント	12.7%	65.8%	2,415億円
6位	FANG+インデックス・オープン	大和アセットマネジメント	12.7%	65.8%	311億円
7位	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)	三菱UFJアセットマネジメント	12.1%	46.0%	3,685億円
8位	Tracers S&P500トップ10インデックス(米国株式)	日興アセットマネジメント	12.0%	---	327億円
9位	サイバーセキュリティ株式オープン(為替ヘッジなし)予想分配金提示型	三菱UFJアセットマネジメント	12.0%	46.0%	661億円
10位	米国NASDAQオープン Bコース	野村アセットマネジメント	11.7%	64.4%	693億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2024年6月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したのですが、その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。